

大分県下におけるシイタケほた木の害菌 (II)

—鹿川タイプ被害発生地域の伏込み地別水分蒸発量について—

大分県林業試験場 松 尾 芳 徳
 小山田 研 一
 飯 田 達 雄

I. はじめに

シイタケほた木に、いわゆる鹿川タイプの被害が発生した地域内で、激害、軽害伏込み地における水分蒸発量を測定したので結果を報告する。

II. 調査方法

昭和49年に大分県で鹿川タイプ被害の激しかった竹田市、玖珠郡九重町、日田郡上津江村の3地域において、鹿川タイプの被害木が伏込み木数の3割以上あった激害伏込み跡地2カ所と、全く被害が無いか、あっても微害であった伏込み跡地2カ所、計12カ所を選び、原木を伏せ込んだ。伏込み地の環境は表一1のとおりである。蒸発量の測定は細菌濾過管型蒸発計⁽¹⁾(以下蒸発計と略称)を用いた。測定を開始する前に蒸発計24本と小型標準蒸発計(直径20cm, 深さ10cm)1個とを、裸地伏区と環境条件が類似している当場内の人工ほだ場(ダイオネット2枚張り)に併置して、各蒸発計と小型標準蒸発計の蒸発量から両者の関係式(換算式)を求めておき、この標準計換算値により伏込み地間の比較を行なった。蒸発計は伏込み列の中央部に架台を立ててその上に設置し、細菌濾過管の中央部が地上60cmの高さになるようにした。各伏込み地に2本ずつ設置、笠木や伏込み木により直射日光が当たらないようにした。各伏込み地の蒸発量は2本の平均を示す。

III. 調査結果と考察

九重町地域の月別蒸発量を図一1に示した。竹田、上津江村地域の各伏込み地とも九重町地域の蒸発量と同様に、6月上旬から蒸発量が多くなり、7月上旬から8月上旬にかけて最大となり、8月下旬以降は減少する結果となった。各地域伏込み地の蒸発量累積値は、図一2・3・4に示すとおりであった。すなわち、こ

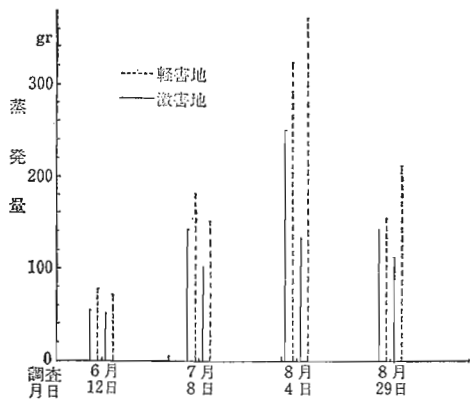
れらの結果から、各地域ごとの蒸発量には多少の差はあるが、地域内別にみると、竹田地域における軽害地の1例を除き、いずれの地域でも激害伏込み地の蒸発量が軽害伏込み地より少ないことは明らかである。地域ごとの蒸発量の多少は、その年の気象(降雨量、気温)や地域による気象のちがいで当然ありうるが、地域内における蒸発量の差は、伏込み地の環境のちがいでによるものであり、環境の変化がない限り、この傾向は年による変動はないものと考えられる。したがって降雨量の多い年は、蒸発量の少ない伏込み地(湿度の高い伏込み地)の場合、管理が重要な意味をもつと考える。蒸発量の多少は、伏込み地の気温、湿度、通風の良否に大きく影響を受けると考えられるが、土壌条件と蒸発量の関係も明らかにする必要がある。

引用文献

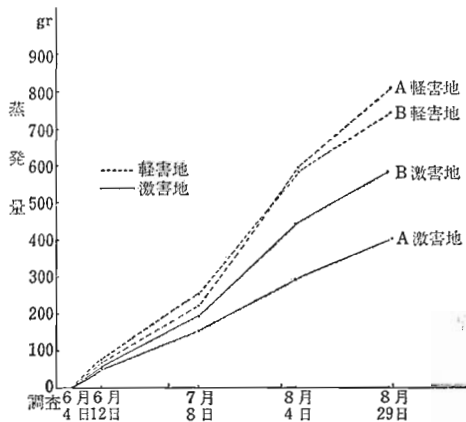
- (1) 安藤正武他2名：日林九支研論, 28, 239~240, 1975

表一1 試験地の環境

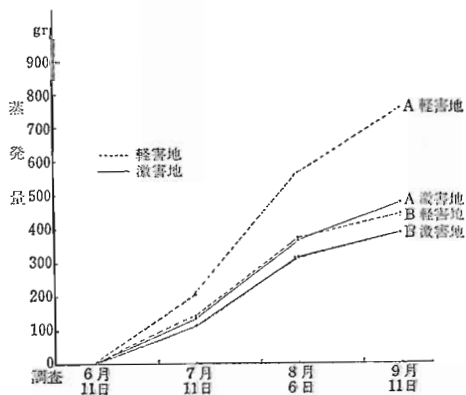
地域	調査地	標高	方位	傾斜	林 況	9月までの蒸発量
竹田市	A 軽激	m 350 530	— N	0	クヌギ幼樹疎林内 台地 クヌギ幼樹 20疎林内	g/100cm ² 752.5 474.5
	B 軽激	600 560	S N	25 20	マツ林内斜面上下 開放 原野, クヌ ギ幼樹点在	445.4 388.1
九重町	A 軽激	720 950	S W	5 20	原野 クヌギ伐跡	810.7 407.8
	B 軽激	580 680	W S	20 20	原野 クヌギ伐跡	741.4 588.2
上津江村	A 軽激	400 640	NNW NNW	20 20	原野 コナラ, クヌギ林 内	841.3 381.0
	B 軽激	600 620	SW NW	15 20	原野 原野	727.3 625.6



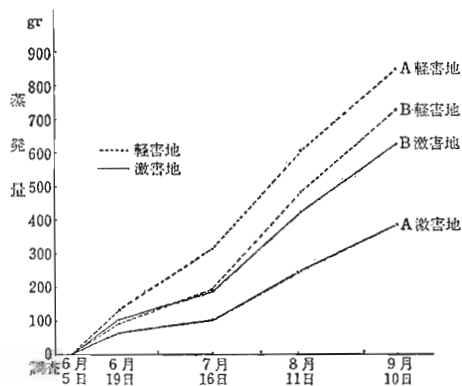
図一 九重町地域伏込地の激、軽害地別月別蒸発量 (gr/100cm²)



図一 3 九重町地域伏込地, 激, 軽害地別蒸発量 (gr/100cm²)



図一 2 竹田地域伏込地, 激, 軽害地別蒸発量 (gr/100cm²)



図一 4 上津江村地域伏込地, 激, 軽害地別蒸発量 (gr/100cm²)